

第 章 総括

第 1 節 多角形竪穴建物について

1 はじめに

平峰遺跡では、古墳時代中期後半以降のものと考えられる多角形竪穴建物が 5 棟（五角形 3 棟、六角形 2 棟）確認されている。多角形竪穴建物は西日本を中心に報告例があるがそのほとんどが弥生時代後期から古墳時代の初頭におさまるもので、古墳時代中期にまで下る例はわずかしき確認できない。

また、これまで確認された多角形竪穴建物の平面形態についても、五角形、六角形、八角形と様々であるが、そのほとんどが主柱に対応する部分で円弧がきつくカーブしているだけという印象であり、円形を志向して作られたものとして差し支えないと考えられる。兵庫県田能高田遺跡例（兵庫県教育委員会 1997）や香川県伏原遺跡例（財団法人高知県埋蔵文化財センター 2010）のような明確な多角形を呈する竪穴建物はほとんど無いといっていいだろう。

ここでは、時間的にも形態的にもやや特異な状況を呈する平峰遺跡の多角形住居が、集落の中でどのように位置づけられ、かつ、どのような影響下で成立したかを若干検討したい。

2 多角形竪穴建物研究小史と検討課題の抽出

多角形竪穴建物に関して、それに特化した研究は非常に少ない。集落構造や、竪穴建物の形状変化の中で例外的、もしくは円形から方形への過渡的な形態として取り扱われることが多く、集落内の位置づけとしては、床面積の広さや出土遺物に特異なものが混じることがある点などから、集落構成の中心的な施設としてとらえられることが多い（橋本久和 1995）。古く兵庫県の大中遺跡のものが知られる（播磨町教育委員会・播磨郷土資料館 1990）がこの報告の中でも集落の中心的な共同施設として捉えられている（上田哲也 1990）。その後も細かな性格づけについては差異があるものの、その傾向に大きな変化はないといえる⁽¹⁾。なお、福島孝行は、全国の多角形竪穴建物を含む集落遺跡を集成し、その時期が弥生中期から古墳時代の前半にほぼ限定されること、分布の中心が山陰地方にあり四隅突出墓の造営に関わった人間が分布域の拡大に関与した可能性があることを提示しており（福島 1999）、多角形竪穴建物を具体的な集団と関連づけた数少ない論攷であろう。

以上のように概観すると、多角形竪穴建物に関する論攷は弥生時代に関するものにほぼ限定でき、古墳時代中期のものについては、これらの研究対象となったものとは直接的な連続性を見いだすことは難しい。時期的にも、空間的にも福島（1999）がいう山陰との関係と同様なものを考えることも、また難しく、むしろ、いままで検討の対象とされていた多角形竪穴建物とは別物であると考えた方がいいだろう。そこでここでは、

平峰遺跡の多角形竪穴建物を集落内で明確に位置づける

平峰遺跡の多角形竪穴建物の出自を明確化する

以上、2 点について検討することで、平峰遺跡の多角形竪穴建物がどのようなものを定義づけ、その上で平峰遺跡で確認された集落が、古墳時代においてどのような脈絡の中で営まれたのかを提示することとする。

3 平峰遺跡検出多角形竪穴建物の時期と集落内での位置づけ

平峰遺跡では、3次調査分も含め五角形3棟(30号・31号・45号)および六角形2棟(28号・29号)の竪穴建物が検出されている。これらの竪穴建物の時期は、出土遺物でみる限りおよそ以下のとおりである。

- | | |
|---------|------------------------------------|
| 五角形：30号 | 今塩屋・松永編年(今塩屋・松永2002)6期か。6世紀中葉。 |
| 31号 | 今塩屋・松永編年6期か。土器をみる限り、30号よりやや新しくなるか。 |
| 45号 | 今塩屋・松永編年6期か。 |
| 六角形：28号 | 今塩屋・松永編年4期か。5世紀後葉。 |
| 29号 | 今塩屋・松永編年4期か。5世紀後葉。 |

以上のように、五角形と六角形の竪穴建物の間には明確に時期の差があり、六角形が五角形に先行することがわかる。集落内に占める割合は、調査範囲だけであるが、48棟(3次調査分も含める)中5棟とわずかに10%強の比率で、床面積が五角形 38.5m^2 (3次調を除く。)六角形 36.4m^2 と方形竪穴建物の平均 24.5m^2 を大きく上回る。以上のことから一般の居住建物とは性格を異にすると考えた方がよからう。

多角形竪穴建物の集落内における性格の候補として

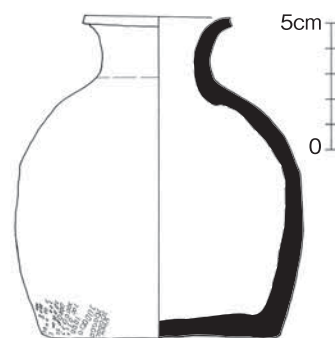
- 集会場
- 首長的の人間の家屋
- 祭祀場
- 工房

等の可能性が考えられる。については、五角形の2棟についてベンガラ塊が出土しており何らかの祭祀行為を示す可能性はあるものの、明確に建物使用時のものであることを示すものはない。については、工房跡であることを明確に示す遺物の出土はみられていない(滓や鞆の羽口などの鍛冶関連遺物は出土しているが、鍛冶工房であることを示すほど突出しているわけではない)。であった場合には、周辺建物と出土遺物の量的・質的な差異でそれを示すことができようが、明確な差は見取れない。よって、ここでは消極的な理由からではあるが、平峰集落内において、集会場的施設であったと判断しておきたい。なおその形状は、6世紀を前後する時期に六角形から五角形へと変化している。

4 多角形竪穴建物の出自について

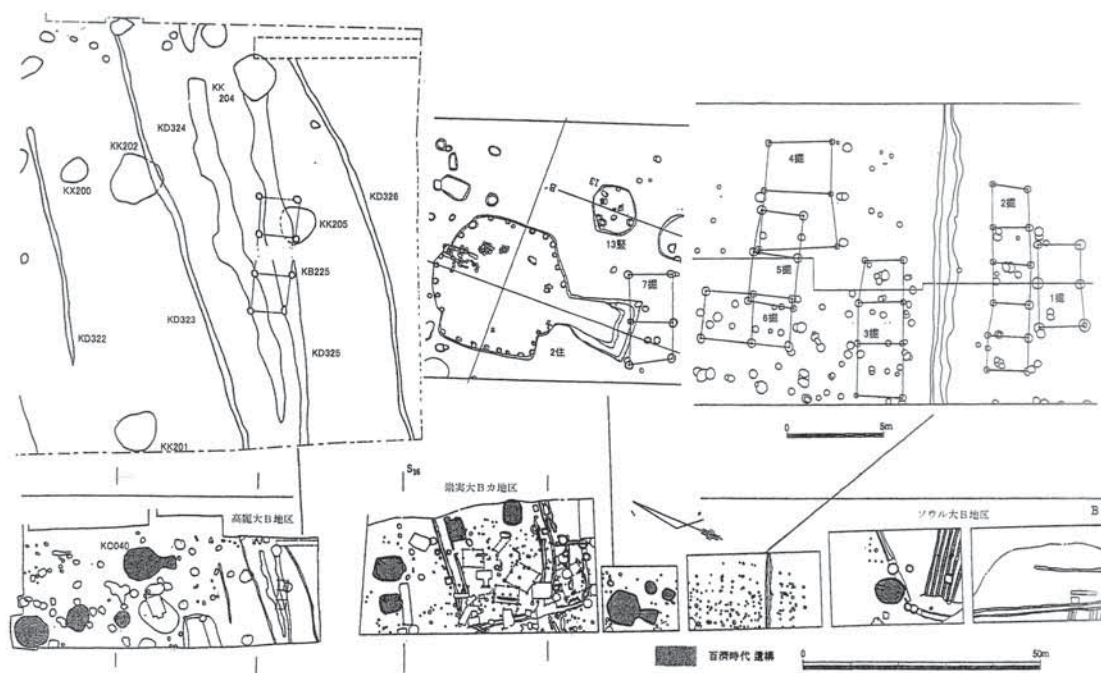
列島内においては、近畿・中四国に多角形竪穴建物の検出例は集中するが、前述したようにその多くが円形志向のものでありかつ、時期的にも古墳時代の中期まで下るものはほとんどない⁽²⁾。よって、平峰遺跡検出の多角形竪穴建物が列島内で自発的に考案され発展したものとみなすことは難しいといわざるを得ない。

そこで参考にしたいのが、3次調査で出土している陶質土器(第128図)である。平底の瓶であるが、国内では橿原市新沢千塚281号墳(奈良県立橿原考古学研究所1981)や四条畷市部屋北遺跡(大阪府教育委員会2009)等から出土しており百済系であるという⁽³⁾。また12号竪穴建物跡から出土した甕(第44図205)には底部周辺に格子目

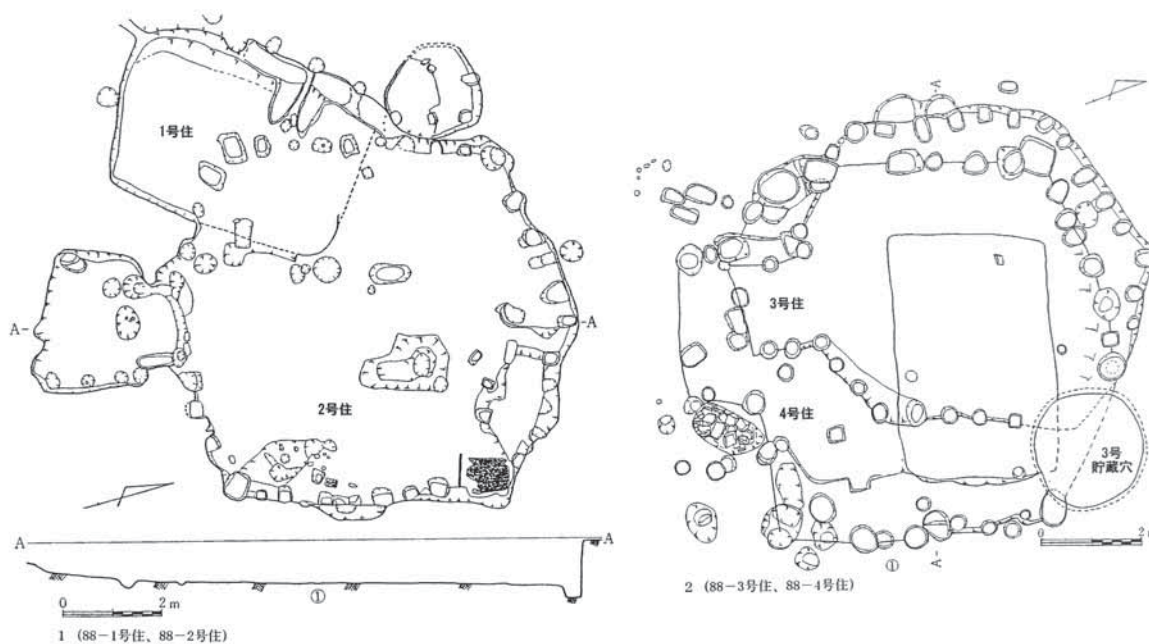


第128図 3次調査出土の平底瓶(1/3)

のタタキあとが残されており、韓半島の有孔広口小壺にもタタキが残されているものが散見できる⁽⁴⁾。これらの遺物が韓半島系と仮定すれば、直接的か間接的かはともかく、平峰遺跡は半島となんらかの関連があったと考えることも可能だろう。三国時代の韓半島では、夢村土城や風納土城などで平面六角形でその一方に入口が付く大型の建物が存在することが知られる（武末純一2007）。また、自作里遺跡や漢沙里遺跡などのように少数の大型多角形建物と多数の円や楕円などの建物とで構成される集落遺跡も存在しており（武末2007）、平峰遺跡の集落構成と似るのも示唆的である。これのみをもって、多角形竪穴建物の故地を韓半島に求めるのはいささか短絡に過ぎるが、これらの建物が六角形であること、



漢沙里遺跡B地区の北西側遺構



夢村土城遺跡の入口付多角形建物

第129図 百濟地域の大型多角形建物（武末2007より転載）

平峰遺跡においてより古い多角形竪穴建物が六角形であることも含め、ひとつの可能性として提示しておきたい。

5 まとめ

平峰遺跡で検出された多角形竪穴建物について、その集落内での位置づけと出自について若干の検討を行ってみた。集落内では非常に少数であり、かつ、床面積が他の建物と比して広いこと、それに反し遺物の優位性はみてとれないことから集会場的施設と予想した。この結論は、これまで弥生時代の多角形竪穴建物に対し行われてきた評価を踏襲するものといえるだろう。また、平面形について、列島内での同時代の資料が皆無に近いことから韓半島由来であると想定し、その裏付けとし百済系の陶質土器が出土していること、百済地域の三国時代の集落に多角形の大型建物を中心に形成される例があることを示した。以上のことから、やや乱暴な結論づけではあるが、平峰遺跡の集落の形成には韓半島の人間が大きく関わっていたと積極的に評価したい。ただし、このような結論を導き出すための論拠は非常に薄弱であり、今後の調査例や資料の増加、研究の深化に伴って大幅な修正が必要であることも付け加えておきたい。

では、平峰遺跡の集落形成に渡来系の人間が関与していたとした場合、都城盆地の西南の縁辺にそれが営まれた理由は何であろうか。

平峰遺跡の集落がピークを迎える古墳時代の中期と考えられる。同時期には都城盆地周辺に築池や菓子野などの地下式横穴墓群が展開していく。築池の調査では、近年、竪坑から馬歯と轡が出土（宮崎県都市教育委員会2010）し、築池の集団と馬匹生産に深い関わりがあることが示されている。また、菓子野地下式横穴墓群では鉄鐸が出土している。馬匹生産、鉄鐸とも、韓半島との関わりを示すものとして認識されている⁽⁵⁾。この時期、須恵器生産や馬匹生産に代表されるような半島系の技術を積極的に受け入れている時期であり、都城盆地周辺もその類に漏れないといっていいたいだろう。

また、平峰遺跡の立地は、都城盆地から南に志布志湾、西に錦江湾へとつながる陸路の結節点、分岐点ともいえるべき箇所である。南方を向いたこれらのルートの中には、南海の諸島が広がる。都城盆地がこれら南島産の文物を扱う中継地点であったと仮定すれば、菓子野や築池などの地下式横穴墓に貝釧が副葬されている例があることも理解しやすいだろう。また、前述したように、菓子野や築池には渡来系を思わせる出土品があることから、これら南海との交易ルート⁽⁶⁾に渡来系の人間、もしくはそれと深い関わりのある人間⁽⁷⁾が関与していたと考えることも可能だろう。

平峰遺跡の集落は、南島との交易ルート上、都城盆地への入り口近くに設けられた集落であり、その経路の維持に何らかの主体的関わり合いをもった集団だったと想定したい。また、その集団は、渡来系もしくはそれに深い関わりを持った集団であったと考えたい。

【註】

- (1) 福島孝行(1999)は多角形であることのみで短絡的に「集落内の中心的なたてものであるとか、集会場的な役割を考えられること」に批判的な意見を提示している。
- (2) 古墳時代中期前半に位置づけられているものには鳥取県大栄町の上種遺跡例(鳥取県東伯郡大栄町教育委員会1979)や東屋敷遺跡例(大栄町教育委員会1981)などがあるが全体としては非常に少ない。

- (3) 交野市教育委員会の真鍋成史氏の御教示による。
- (4) 甕の底に格子のタタキの痕跡があるものには伊予市市場南組窯産のものの中などにもあり、これをもって陶質土器だと即断することは危険だろう。
- (5) ただし、韓半島の鉄鐸と鍛冶具との供伴例に関して村上恭通は「 陝川、昌原という加耶地域に限られた現象と考えられる 」(村上2004) としており、百済系とはいえないようである。
- (6) 木下尚子による「九州東の貝の道」(木下1996) においても志布志湾から宮崎平野にいたるまでの海岸部に「主体的消費地域」が存在しないのは示唆的である。東憲章が「内陸部を経由するなど陸路の存在も視野に入れておく必要がある。」(東2006) と述べているとおり、消費地をたどる限りはむしろ志布志湾 都城平野 宮崎平野部というルートの方が理解しやすいだろう。
- (7) 菓子野地下式横穴墓出土の人骨については、報告書に所見があり報告者は「すべて南九州地下式横穴人形質の範疇に入るものと理解してよい」(小片丘彦・川路則友・峰和治・山本美代子・岡元満子1986) としており、被葬者自体が渡来系人物とは考えにくい。

【参考・引用文献】

報告書等

- 大阪府教育委員会2009『 葎屋北遺跡 』大阪府埋蔵文化財調査報告2009-3
- 財団法人高知県埋蔵文化財センター2010『 伏原遺跡 都市計画道路高知山田線発掘調査報告書 』高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第108集
- 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター2008『 京都府埋蔵文化財情報 』第106号
- 高槻市教育委員会1995『 芥川遺跡発掘調査報告書-縄文・弥生集落の調査- 』高槻市文化財調査報告書第18冊
- 奈良県立橿原考古学研究所1981『 新沢千塚古墳群 』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第39冊
- 播磨町教育委員会・播磨郷土資料館1990『 播磨大中遺跡の研究 』
- 兵庫県教育委員会1997『 尼崎市 田能高田遺跡 』兵庫県文化財調査報告第166冊
- 守山市教育委員会2003『 伊勢遺跡75次発掘調査報告書 』
- 兵庫県教育委員会1997『 尼崎市田能高田遺跡 』兵庫県文化財調査報告第166冊
- 鳥取県東伯郡大栄町教育委員会1979『 上種第1遺跡発掘調査 』大栄町文化財調査報告書第23集
- 鳥取県東伯郡大栄町教育委員会1981『 別所経塚・東屋敷遺跡発掘調査報告 』大栄町文化財調査報告書第17集

論文等

- 上田哲也1990「 竪穴住居址の遺構と機能 」『 播磨大中遺跡の研究 』
- 小片丘彦・川路則友・峰和治・山本美代子・岡元満子1986「 宮崎県菓子野地下式横穴出土の人骨 」『 菓子野地下式横穴 築池地下式横穴 』都城市文化財調査報告書第4集
- 木下尚子1996『 南島貝文化の研究一貝の道の考古学一 』
- 高野陽子2008「 長岡京跡(伊賀寺遺跡)の多角形住居跡 」『 京都府埋蔵文化財情報 』第106号
- 武末純一2007『 百済集落の研究 』平成17・18年度科学研究補助金 基礎研究(C) 研究成果報告書
- 多淵俊樹1990「 大中遺跡竪穴住居址群の建築史的検討 」『 播磨大中遺跡の研究 』
- 徳平涼子2010「 多角形竪穴住居跡について 」『 伏原遺跡 』高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第108集
- 橋本久和1995「 多角形住居と破鏡 」『 芥川遺跡発掘調査報告書-縄文・弥生集落の調査- 』高槻市文化財調査報告書第18冊
- 東憲章2006「 宮崎県出土の南海産貝製品 」『 特別展貝の来た道～東の道は存在したか～ 』県立西都原考古博物館
- 福島孝行1999「 平面形多角形の竪穴住居の検討 」『 考古学に学ぶ 』同志社大学考古学研究シリーズ
- 村上恭通2004「 朝鮮半島系遺物を共伴する鍛冶具をめぐって 」『 東アジアにおける古代鍛冶技術の伝播と展開 』平成12年度～平成15年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(2) 研究成果報告書